



どこで読もうか。
なにを読もうか。

Illustration by Usagi Tadairo

新潮 クレスト・ブックス 2015-2016

〔新刊インタビュー〕 ミランダ・ジュライ

〔インタビュー〕 ジュンパ・ラヒリ

ただいま翻訳中! これから出るクレスト・ブックス

新潮クレスト・ブックス カタログ 1998-2015

SINCE 1998

C R E S
B O O K S
Shinchosha



映画『ザ・フューチャー』の脚本執筆に行き詰まっていたミランダ・ジュライは、日用品の個人売買を仲介するフリーペーパー『ベニーセイバー』に目を留める。革ジャン、ドライヤー、おたまじやくし、他人の家族写真。思い思いの品物の売買広告を出している人たちを、彼女は訪ねてみようと思いついた。まずは電話をかけて『ベニーセイバー』の広告を見て連絡している旨を告げ、それからインタビューもさせてくれるように依頼をする。そして友人で写真家のブリジット・サイアーを伴って、彼らの家に向かった。

パソコンを持たない人たち

——この本に収められたインタビューでは、毎回と云っていいほど、パソコンというモチーフが出てきますね。

はじめからそこに注目していたわけではないんですが、彼らの家にはだいたいパソコンがなくて、だからパソコンを使うことで生じるメンタリティも持っていないということがわかってきたんです。わたしはいつも「不在」とか「欠如」に興味があります。どこにでもあるものがないような場合は特に。

——パソコンを使うことと、『ベニーセイバー』で誰かと触れ合うことは、どんなふうに違うんで

電話をかけて、 誰かと話さなくちゃ

『いちばんここに似合う人』に続くミランダ・ジュライ2冊目の著書は、フリーペーパーで見つけた12人へのインタビュー集だ。

彼女はなぜ、見ず知らずの人々に会いに行こうとしたのか。

彼らは何を感じ、考え、どんなふうにも暮らしてきたのか。

胸を打つ異色作が生まれる過程を率直に語るロングインタビュー。

ミランダ・ジュライ

interview with Miranda July

聞き手

フェリス・ルシア・モリーナ

interview by Feliz Lucia Molina

翻訳・西山敦子

translated by Nishiyama Atsuko

しようか。

『ペニーセイバー』は最初からフィジカルな経験なんです。めくれば指先が汚れるし。まず電話をかけて、誰かと話さなくちゃいけない。それがすごく魅力的で、この発想こそ大切なんだと思えたんです。

—— 広告を出している人が、電話の向こうにちゃんといる。

ええ、向こうは売りたいものを見せる準備をして待っています。わたしがそこにいるのも場違いじゃないし、凶々しくもない。でもインタビューとなると話は別で、ほとんどの人にそこまではできないと断られました。でも、受けてくれるという人もいた。

—— 引き受けてくれた人たちは、やはり孤独を感じていて誰かとつながりたいとか、話をしたいと思っていたんでしょうか。

あからさまにそうだとわかる場合もありました。電話口ですぐに用件以外のことを話したり。ジョーは早口でとにかくよく喋りました。それで「よければお宅にうかがって、お話を聞かせてもらいたいですか」と言うのと「うんうん、もちろん」と。ほかの人たちも、なんとなく興味をそそられたんでしょうけど、なぜわたしを家のなかに入れてもいいと判断したのかはよくわからない。彼らがわたしになにを求めているのか感じ取るのも自



分の役割のひとつだと思っていました。

——ソーシャルワーカーとセラピストの中間のようなものだった、と言っていましたね。助産師みたいな部分もあったのでは？

助産師ね、確かに。わたしも子どもを産んだばかりだから、わかります。出産のときって、自分のパーソナルな部分を他人とたくさん分かち合うことになる。でもわたしはもともと利他的なタイプじゃないし、人を助けるのが仕事でもないのよ。彼らの人生をよりよくする必要はないのよ、と自分に言い聞かせ続けました。ただうっとうしいだけかもしれないし、不適切な質問をするかもしれない。わたしは自分が考えるストーリーにひたすら突き動かされていただけなんです。

現実には嫉妬する

——彼らとの出会いが映画『ザ・フューチャー』へのインスピレーションにもなった。

ええ。「ああもう、こっちのほうがいいじゃない」と感じました。現実がおもしろすぎて、の書いているお話より全然おもしろいじゃない」と感じました。現実がおもしろすぎて、嫉妬してしまいます。それでもしばらくは踏みとどまっています。素人で、しかも文明社会の外側で生きているこういう人をキャスティングすることこそ、かっこいいバンクな

運命とか奇跡があるとすれば、
まさにそれそのものでした。



やり方かと思えてきて。資金面の状況はどうせよくないんだし、やってみよう、と。失うものはなにひとつなかったし、どうせ後で手を引きそうなスポンサーをふるいにかける、ちょうどいい試金石になるとも思ったんです。

——ジョーと奥さんのキャロリンに出会ったことは、素晴らしい偶然であり運命でしたよね。映画でジョーがかなり重要な役割を演じます。これはリスクなことでしたか。

運命とか奇跡があるとすれば、まさにそれそのものでした。撮影クルーのほとんどが「これ、どうするんだ？」という感じで完全に混乱していましたが、気づけば現場がわたしのほうにぐっと近づいていました。

——ジョーの出演したシーンはほとんど即興によるものですね。彼が決められたセリフをなかなか言えなくて、ようやく発した彼流の言い回しのほうがよいものになったり。

あれはとてもハッピーなアクセシビリティでし

た。もとのセリフは「君らはまだ始まりの途中なんだよ」。でも彼の言葉では「始まりはまだ終わっていないんだ」になってしまおう。たぶん、とてもロジカルな人だから。このカッブルはつき合って四年目だと説明すると、ジョーは「始まり」の長さで段階を示すべく「始まりはまだ終わっていない」と言うんです。そこでわたしも「そうか、〈始まり〉に

も長さがあるのね」と気づいて。「始まり」にも始めがあって、真ん中があって、終わりがある。これは時間についての映画だし、このカッブルの人生の「始まり」の長さや、猫の生涯の終わりについての映画でもある。そのことに気づいたおかげで、これが「枠組み（フレームワーク）」についての映画なのだということが、はっきりとわかりました。

——あなたはスピリチュアルなほうですか。この本では、星の巡り合わせのようなことにもかなり言及しているように思いますが。

本のタイトルでそれを表そうと思いましたが、はっきり頭でわかる部分だけではなく、自分の意識のすべての部分に耳を傾ける。魔法のようなものがあると思っているのではなくて、目に見えるものに限定せず、自分のさまざまな部分がひきつけられているものを信じようとしているんです。『ザ・フューチャー』のジェイソンの人物像には、そういう生き方を織り込んでみました。わたしが演じたソフィーという人物のほうは、恐怖にとらわれると人はどうなるかを体現しています。

——『あなたを選んでくれるもの』に出てくる人々について、聞きたいことがたくさんあります。例えばベヴァリー。彼女はちょっと気持ちの悪いフルーツサラダを作ってくれましたよね。それがまるでなにかの予兆のようで、あなたはすぐに帰りたいと感じる。

そう、どんなものが出てきても受け入れる聖人になることはできない。悲しいことですよね。実はこういうプロジェクトをやるのは、ひとつにはわたしの対人関係に問題があるからなんです。知らない人と一緒にいるのは本当に居心地が悪くて。だからわざとそのことに向き合わなくちゃいけない状況を作り出し



て、自分を見つめ直すようにするんです。今回、わたしの問題はまったく改善されませんでした。少なくとも自分のしたことをすべて観察して記録しました。悲しい気持ちになっただけです。もっと明るい結果にだってなつたはずなのに、と思つて。

それぞれの内面とファンタジー

——バムの場合はどうですか？ お金持ちの白人夫婦のアルバムを見て、客船や世界旅行へのファンタジーを抱いている女性ですが、それから、彼女と同じようにマネキンや写真などイメージ（表象）に強くひきつけられているレイモンドやドミンゴは？ ファンタジーや欲望をはらんだ彼らの肉体的／精神的／感情的空間に立ち入るのは、どんな気分でしたか。

彼らに対してわたしが感じたことはそれぞれ違つていますが、でもあえてまとめれば、彼らが抱える内面世界やファンタジーにこそ、わたしは惹かれるんです。この本全体が、なんらかの形でそういうことを扱つていません。コラージュとか他人の写真のアルバムに強い思い入れを抱くことが、変態的だとか異常な収集癖だとは思わない。もし集めているのがネット上のセレブの画像なら、誰しもが普通のことと見なすでしょう。本当は同じこ



彼らが抱える内面世界やファンタジーにこそ、

わたしは惹かれるんです。

この本全体が、なんらかの形でそういうことを扱っています。

となんです。それにこのご時世に『ベニーセイバー』を通して物を売る人たちが、デジタルではないもの、つまり空間に実在するものを扱うのは当然といえば当然のことです。

——ドミンゴについて少し話してもらえますか。

会う前に彼のコラージュと写真の封筒を見ていたので「なにこの人、コワイかも」という感じでした。でも彼は、なぜそういうものを集めるのか、はつきりと、正直に話してくれました。「これからも自分は絶対に家庭や仕事を持つことはない」と彼は言うんです。おとなになることとはほぼ同義だと、みんなが何となく教えられてきたものを、ドミンゴはこれからも持たない。家族も、仕事も。写真やコラージュはイヤらしいものじゃない、と彼は言いました。そんなふう疑われるかもしれないことも知ってるけど、と。彼はカウセンセリングも受けているようでした。大切なのは本人の言葉でしょう。「写真を壁に貼れば、自分にも仕事や家族があると空想したいときに役立つ。その世界に浸れるんだ」と。

——この『ベニーセイバー』版ビジョン・クエスト（自らの使命を知るため数日間自然の中をさまよう、ネイティヴ・アメリカンの儀式）は、ロサンゼルスじゅうの切ない思い出がまった場所の連なりようです。出会った人や見たものすべてに対する、あなたの口に出さない不思議な思いを

感じるというか。

そう、わたしはすぐ感情が高まるし、涙もろいんです。自分のそういう部分にすべてが影響されてしまわないよう、気をつけなくちゃいけないくて。「そこでわたしは涙をこぼした」と付け加えることもできませんでしたけど。どれだけ居心地が悪くても、その場のリアリティのなかにいようとけっこうがんばりました。そして、いつも心を揺さぶられました。——インタビュールした人たちには、完成した本を見せましたか。

ただひとり見てほしかったのはジョーでしたが、亡くなってしまいました。彼の娘さんと妹さん、お孫さんとは連絡を取っています。彼らはお互い疎遠になってしまっていて。ジョーにお別れを言えなかつたり、もともと彼のことをあまり知らなかつた親戚の人たちにとっては、この本と映画が大切なものになっていくんです。実はつい最近、メールをくれた人がいて、「先週末にフリーマーケットで買った写真に住所が書いてあり、住人の名前が分かりました。それがジョー・パターリック氏で……」

——ええ、すごい！

「……そこからあなたにたどり着きました」って。実はそれで初めて、ジョーのお孫さんはお祖父さんの死を知ることになったんです。

——その男性はなぜあなたに連絡を？

親切な人でした。お金を取ろうとかではなく、すごく興味を持ったみたいで。しばらくはわたしがそのアルバム三十冊を手元に置いていました。白黒写真から始めて最近のまで、子どもたちが成長し、結婚する姿まで見ました。アルバムの写真を眺めて、予想だにできなかったほどあの家族のことをよく知りました。その時点で、ジョーとキャロリンの夫婦はふたりとも亡くなっていました。彼らの息子がアルバムを保管していました。彼も交通事故で死んでしまい、それでオークションにかげられたんですね。アルバムはつい先週、ジョーの娘さんに全部送りました。そう

なって本当によかった。彼女には唯一残された家族の思い出の品ですから。アルバムが奇跡的に救い出されたのはインターネットのおかげ。ネットはやっぱり便利ですすよね。

——見知らぬ人との間に不思議なつながりを感じたことは、これまでもありましたか。

ええ、それはまた別の話。始まりは高校生のときまでさかのぼるんです。なぜかわからないけれどずいぶん長い間、わたしはそういうことをしてきてるんです。

"I Got To Pick Up The Phone and Talk To Somebody"

by Feiz Lucia Molina

© BOMB Magazine December 5, 2012

あなたを選んでもくれるもの

It Chooses You by Miranda July

photographs by Brigitte Sira

岸本佐知子訳 590119-6 2300円(税別)



photograph by Aoki Noboru

Miranda July

1974年ヴァーモント州生まれ。カリフォルニア大学サンタクルーズ校を中退後、ポートランドでフェミニズムとパンクが融合した「ライオット・ガール」ムーブメントに加わり、短篇映画も撮り始める。2005年、カンヌ国際映画祭でカメラ・ドール(新人監督賞)を受賞。2007年、初めての短篇集『いちばんここに似合う人』でフランク・オコナー国際短篇賞を受賞。2011年、映画『ザ・フューチャー』を発表。2012年に長男を出産、夫で映像作家のマイク・ミルズとともにロサンゼルスに暮らす。

ジュンパ・ラヒリがイタリア語と出会ったのは学生時代。妹と二人、初めてのイタリア旅行の行き先に選んだのはフィレンツェだった。十七世紀イギリス小説へのルネサンス建築の影響について論文を書いていたラヒリは、クリスマス前のある日、夕暮れのフィレンツェに到着する。ポケットには緑色のビニールカバールのついた、小さな伊英辞典。それから二十年、「湖の岸沿いを泳ぐように」イタリア語を学び、恋しつづけてきたラヒリは、夫と子ども二人を伴い、二〇二二年、とうとうローマに移り住む。丘の上の家を、マイケル・エメリックさんが訪ねた。

——『停電の夜に』『その名にちなんで』『見知らぬ場所』、そして最新作の『低地』。あなたの作品の登場人物は、故国を離れ、居場所を転々として生きている人が多いですね。

おっしゃるように、わたしは外国人や移民たちを作品のなかで書いてきました。でもわたし自身、これまで外国人としての生活を実際に経験したことはなかったんです。

——それがいまはイタリアにいらっしゃる。

四十五歳でローマに引越越し、突然外国人になりました。そして、長年片思いしてきたイタリア語を話しています。たとえ自信ありげにしゃべっているようでも、まちがいだら

言葉は差異の 最後の砦

ジュンパ・ラヒリ
interview with Jhumpa Lahiri

聞き手
マイケル・エメリック
interview by Michael Emmerich
翻訳協力・小竹由美子

Interview
Photograph: Splash/AFL0

け。理解できない言葉や物事もたくさんあります。

いまやわたしも両親と同様に、子どもたちを外国で育てています。どうして両親の世代を描くことから自分の小説を始めたかという点、わたしには彼らのことがよくわからなかったからです。両親のことを知りたいとずっと渴望していました。ひとつの国を離れてべつの国にやってきたことは、彼らにとってどんな意味を持っていたのか。書くことによって、深く理解したかった。

そして四冊の本を書いたあと、こんどこそ自分自身もやってみなくてはと思ったんで

す。わたしをニューヨークから引き離れたものは、とろとろゆっくり煮え続けてきた本物の必然性だったんです。人間として、作家として、こうしなければならぬと心底思った。あらゆるレベルで、外国人であるというのが実際どういうことか、いちどじかに自分で経験してみなければならぬと。

わたしにはもちろん、アメリカでの生活があります。そこで育ち、ずっと暮らしてきました。そしてインドの親類縁者たちの世界。複数の文化にふれることは、人間によりいっそうの柔軟性を与えてくれます。それは真の恩寵です。言語の面でも、英語はわたしの第一言語ではありませんでした。まず両親の言葉、ベンガル語があった。そして英語。わたしは父の勤めていたロードアイランド大学の図書館で英語の本と出会いました。図書館は、英語と本の世界、両方の入り口だったんです。それから、英語で書くことを始めました。

そしていまでは第三言語のイタリア語があります。こちらの友人とイタリア語で話している——あなたならきつとおわかりでしょう？ 英語とイタリア語よりもっと異なる言葉話すのだから——ちがう言葉を使うと、ちがう筋肉を使い、ちがう自分になる。イタリア語だと、わたしはちがう考え方をします。ちがう反応をします。ちがう書き方に



Jhumpa Lahiri

1967年、ロンドン生まれ。両親ともインド・カルカッタ出身のベンガル人。2歳で渡米。東海岸ロードアイランドで成長する。大学、大学院を経て、99年「病気の通訳」でO・ヘンリー賞、同作収録の短篇集『停電の夜に』でPEN／ヘミングウェイ賞、ニューヨーカー新人賞、ピュリツァー賞ほか受賞。2003年、長篇小説『その名にちなんで』発表。08年刊行の『見知らぬ場所』でフランク・オコナー国際短篇賞を受賞。13年、長篇小説『低地』を発表。

＊ラヒリの初めてのエッセイ『べつの言葉で』はイタリア語で書かれました。新しい言葉を学ぶこと、異国で暮らすこと、発見、困惑、希望、不安、歎ひ……すべてがつまった必読のエッセイです。9月30日発売予定。

なります。そうした自分の別バージョンを与えられるのはすばらしいことだと思いません。

——はい、よくわかります。

子どものころ、わたしはすでに両親よりも英語がよくできました。英語で書く必要があるとき、両親はわたしに訊いていません。両親を守りたいと思うと同時に、ときに恨み

がましい気持ちにもなりました。子どもって、親にはなんでも自分以上に知っていてもらいたいものではないか？　うちの子どもたちもそうですよ。ママとパパはなんでも知っている（笑）。外国人である両親のもとで成長した人はたぶんみな同じなのではないでしょうか。いまこうしてローマに暮していると、言葉というのは、差異の最後の砦ではないかと思

うんです。言葉がちがうとあなたもちがう。言葉にくらべたら、人間はそれほどちがいがありません。言葉というのはとても緻密で驚くべき発明、存在です。ベンガル語と英語を話し、アメリカで育ってカルカッタへ行き、カレーを食べ、テレビで「ハッピーデイズ」を見ていたわたしのようなハイブリッドの間とちがって、言葉は融通が利かないんです。

(2013.6)

ただいま翻訳中!

今秋以降に刊行を予定している注目の作品を、
それぞれの翻訳者の方々にご紹介いただきました。
今回はアルゼンチン、イギリス、アメリカ、オランダ、カナダと、
いつも以上に様々な国の作品が並びました。



photograph by Aoki Noboru

※タイトルはすべて仮題です。

『文学会議』

セサル・アイラ
El congreso de literatura/ La prueba
by César Aira

柳原孝敦

text by Yanagihara Takaatsu



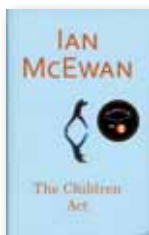
「文学会議」、「試練」のふたつの中篇からなる一冊。「文学会議」は天才カルロス・フエンテスのクローンを作ろうとして、細胞採取のためにフエンテスも招かれた文学会議に参加する〈マッド・サイエンティスト〉にして作家の「私」ことセサル・アイラの冒険譚、「試練」はマオ(毛)とレーニンを名乗るバンク少女カプルからナンパされる十六歳の太めの少女の戸惑いを綴った小説……などという説明がまったく空しく響くのがセサル・アイラの面白い(おかしな)ところ。一筋縄ではいかないのだ。前者では何だかへんなクローンができちゃうし、後者では三人が恋の試練のためにスーパーマーケットに強盗に入ることになっちゃうし、訳していて本当こんな展開でいいのかと不安になる。訳者泣かせで、だからこそめっぽう面白い二作。(二〇一五年十月刊行予定)

『ザ・チルドレン・アクト』

イアン・マキューアン
The Children Act by Ian McEwan

村松潔

text by Muramatsu Kiyoshi



両足越しに部屋奥を眺めている。というふうにはじまるこの物語では、シャム双生児の分離手術やエホバの証人の輸血拒否という微妙な問題が真っ正面から取り上げられ、ひとりの裁判官がどんなふうにも法律的、倫理的な判断をくだしていくかという過程が克明にたどられる。イギリスの話なので、日本とはだいぶ様子が違うが、判例法に基づく審理の実際がよくわかって興味深い。

と同時に、初老を迎えた女性裁判官の私生活上の危機や、死を覚悟したエホバの証人の無垢な少年に対する、あやうく法廷人としての法を超えかねない熱い思いが、マキューアン一流の絶妙な筆致で描き出されている。

ロンドン。陰鬱な六月の日曜日の夜。高等法院裁判官、フィオーナ・メイは寝椅子に仰向けに横たわって、ストッキングに包まれた

(二〇一五年十一月刊行予定)

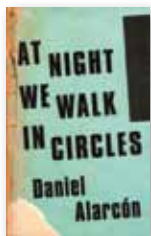
『夜、僕らは 輪になって歩く』

ダニエル・アラルコン

At Night We Walk in Circles by Daniel Alarcón

藤井光

text by Fujii Hikaru



『ロスト・シティ・レディオ』の舞台となった国で、また新しい物語が動き出す。内戦の混乱期からの再建が進むなか、かつて

の前衛演劇集団〈ディシエンブレ〉の中心人物だった劇作家エンリが、旧友と劇団を再結成し、地方での公演旅行を計画したことが、すべての始まりだった。彼に憧れる若者ネルソンがそこに加わり、小都市や村をめぐる旅路が幕を開ける。だがやがて、エンリとネルソンの抱えた傷心の記憶は、その旅を思わぬ方向に導いていく……。

戦争と暴力の記憶という前作の主題からは少し離れ、今作のアラルコンは、愛することや演じること、過去の呪縛や物語の意味などをめぐって、緊張感と美しさに彩られた物語を作り上げた。火花を散らすような言葉が登場人物たちを輪のように交錯させ、そのドラマは一気にラストまで駆け抜ける。

二〇一六年二月刊行予定

『ハリネズミの願望』

トーン・テレヘン

Het verlangen van de egel by Toon Tellegen

長山さき

text by Nagayama Saki



針だらけなのがコンプレックスの内気なハリネズミ。誰かに遊びにきてほしくて招待状を書くが、クジラはきつと小型の噴水をおみやげにもってきて家

じゆう水浸しにするだろうし、キクイムシは掘るのに夢中で木屑だらけにしてしまうだろう、と後ろ向きな妄想がとまらなくなり、もうずっと孤独なままでもいい気がしてくる。でも、ほんとうに？

谷川俊太郎さんが、「ぼくが一生かかってでも書けない、かわいくて怖い童話」と評された『だれも死なない』の著者による大人のための物語。昨年、久しぶりにお会いした著者が持ってきてくれた本書には、以前よりさらにパワーアップした変わりものぞろいのどろろぶつたちが登場し、すぐに机に向かっけて訳さずにはいられない面白さだった。ハリネズミとともにドキドキしながら、お気に入りの一話を見つけてほしい。

二〇一六年二月刊行予定

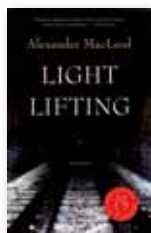
『ライト・リフティング』

アレクサンダー・マクラウド

Light Lifting by Alexander MacLeod

小竹由美子

text by Kotake Yumiko



作者は昨年亡くなったカナダの作家アリス・テア（アレクサンダーのゲール語形）・マクラウドの長男。父と同じく大学で教える傍ら書き溜めた短篇を四〇

代になって出版、このデビュー短篇集でギラー賞、フランク・オコナー賞の最終候補となり、一躍注目を集めた。

最も影響を受けた作家は父だ、という息子の作品の舞台は、八人家族の長男として子供時代を過ごした国境の町ウィンザー。川向うはデトロイトだ。川底をくぐって二つの町を結ぶトンネルで列車と競走するという挿話が登場する中距離ランナーの物語で始まる本書は、肉体労働やスポーツなど、体を動かすことにもまつわる話が多い。自動車産業の町の変化を背景に、老若男女さまざまな人生が、ひりひりとした生身の感覚をもとに語られる。辺鄙な島暮らしを主に描く父とは一味違う世界を

ご賞味下さい。二〇一六年春刊行予定



停電の夜に
ジュンパ・ラヒリ
小川高義訳

1900 円
590019-9

ろうそくの灯りの下、秘密の話を一。ピュリツァー賞ほか独占! インド系女性作家による驚異のデビュー短篇集。もはや古典的名作。



朗読者
ベルンハルト・シュリンク
松永美穂訳

1800 円
590018-2

十五歳の少年ミヒャエルが経験した切ない初恋。母親のような年の女性ハンナを失踪させた秘密とは……。衝撃の世界的ベストセラー。



巡礼者たち
エリザベス・ギルバート
岩本正恵訳

2000 円
590007-6

表舞台とは無縁の人々に突然訪れる「人生の一瞬」。アメリカの批評家、作家、読者を夢中にさせた、恐るべき新人のデビュー短篇集。



**パリ左岸の
ピアノ工房**
T・E・カーハート
村松潔訳

2000 円
590027-4

パリの小さな工房で、若き職人が魔法のように再生する名器の数々……。眠っていた音楽とピアノへの愛が甦る傑作ノンフィクション。



ウォーターランド
グラハム・スウィフト
真野泰訳

2600 円
590029-8

土を踏みしめていたはずの足元に、ひたひたと寄せる水の記憶……。ブッカー賞作家によるもっとも危険なもっとも愛すべき最高傑作。

Shincho Crest Books Catalog 1998-2015

北はスウェーデンから南はジンバブエまで。
新潮 Crest・ブックスがお届けする世界各地の文学
71タイトルをご紹介します。(価格は税別です)



シェル・コレクター
アンソニー・ドーア
岩本正恵訳

1800 円
590035-9

孤島で貝を拾い、静かに暮らす盲目の老貝類学者を襲った奇妙な騒動を描く表題作ほか、O・ヘンリー賞受賞作を含む鮮やかな全八篇。



ソーネチカ
リュドミラ・ウリツカヤ
沼野恭子訳

1600 円
590033-5

本の虫で、容貌のぼっとしないソーネチカ。最愛の夫の秘密を知ったとき彼女は……。神の恩寵に包まれた女性の静謐な一生の物語。



**灰色の輝ける
贈り物**
アリスティア・マクラウド
中野恵津子訳

1900 円
590032-8

カナダ、ケープ・ブレン島島の苛酷な自然の中で、漁師、坑夫を生業とし、一族としての思いを胸に生きる人々。奇跡のような名短篇集。



ペンギンの憂鬱
アンドレイ・クルコフ
沼野恭子訳

2000 円
590041-0

憂鬱症のペンギンと暮らす小説家ヴィクトル。新聞の死亡記事を書く仕事をきっかけに、身边に不可解な出来事が次々に起こって……。



その名にちなんで
ジュンパ・ラヒリ
小川高義訳

2200 円
590040-3

長く口にせずきた思い。愛しい人を遠く焦がれる切なさ。名手ラヒリが精緻に描く人生の機微。ふかふかと胸にしみる待望の初長篇。



冬の犬
アリスティア・マクラウド
中野恵津子訳

1900 円
590037-3

カナダ東端の島で、犬、馬、驚ら動物とともに、祖先の声に耳を澄ませながら人生の時を刻む人々。生の厳しさと美しさを基えた八篇。



**彼方なる歌に
耳を澄ませよ**
アリスティア・マクラウド
中野恵津子訳

18世紀末、スコットランドからカナダ東端の島に渡った赤毛の男がいた——。カナダの「静かな巨人」が描く、愛すべき一族の物語。

2200円
590045-8



遺失物管理所
ジークフリート・レンツ
松永美穂訳

婚約指輪に旅芸人のナイフ、そして腹に現金が縫い込まれた人形。遺失物管理所では、今日もさまざまな人間ドラマが幕を開ける。

1800円
590044-1



**奇跡も語る者が
いなければ**
ジョン・マグレガー
真野泰訳

奇跡は起こった。密やかに。誰にも知られないまま。斬新な文体と恐るべき完成度で無名の人々の生と死を結晶させた現代の聖物語。

2200円
590043-4



**世界の果ての
ビートルズ**
ミカエル・ニエミ
岩本正恵訳

笑えるほど最果ての村で、僕は育った。凍てつく川。薄明かりの森。そして手づくりの僕のギター！ スウェーデンの傑作長篇小説。

1900円
590052-6



ある秘密
フィリップ・グランペール
野崎崎訳

孤独な少年の夢が残酷な過去を掘り起こす。禁断の恋。懊悩。そしてホロコースト。一九五〇年代のバリを舞台にした自伝的長篇。

1600円
590051-9



素数の音楽
マーカス・デュ・ソートイ
富永星訳

神秘的な謎に満ちた数、素数。その不思議な美と今も続く天才たちの挑戦とは。小川洋子さん絶賛のスリリングなノンフィクション！

2400円
590049-6



千年の祈り
イーユン・リー
篠森ゆりこ訳

長い祈りに支えられた父娘の縁。人生の黄昏にある男女の情愛……。オコナー賞、ヘミングウェイ賞はか総なめの驚異のデビュー短篇集。

1900円
590060-1



林檎の木の下で
アリス・マンロー
小竹由美子訳

スコットランドの寒村から新大陸カナダへ——。三世紀の時を貫く作家自身一族の物語。落ちついた声、天才的な筆捌き。12の自伝的短篇。

2400円
590058-8



イラクサ
アリス・マンロー
小竹由美子訳

一瞬が永遠に変わるさま。長い年月を見通すまなざし。長篇小説を凝縮したかのような味わいの、「短篇の女王」による九つの物語。

2400円
590053-3



ベット・サウンズ
ジム・フージーリ
村上春樹訳

恋愛への憧れ、父との確執、麻薬、肥満……。ビーチ・ボーイズの最高傑作『ベット・サウンズ』は、壮絶な戦いの記録でもあった。

1600円
590064-9



土曜日
イアン・マキューアン
小山太一訳

ロンドン、午前四時。未明の空に火を噴く飛行機。テロか？ それとも？ 名匠の優美極まる筆致で描かれる、脳外科医の不穏な一日。

2200円
590063-2



海に帰る日
ジョン・バンヴィル
村松潔訳

海に消えた少女の記憶が、今もわたしを翻弄する。荒々しく美しい、あの海のように。アイルランド随一の文章家のブッカー賞受賞作。

1900円
590061-8



記憶に残っていること
アリス・マンロー他
堀江敏幸編

世界最高の短篇小説をこの一冊に。マンロー、トレヴァー、ラヒリ、マクラウド、イーユン・リー……創刊から10年間の全短篇集から厳選。

1900円
590070-0



見知らぬ場所
ジュンパ・ラヒリ
小川高義訳

父と母の、子供たちの、恋人たちの年月。『停電の夜に』以来九年ぶり、世界待望の最新短篇集。フランク・オコナー国際短篇賞受賞！

2300円
590068-7



密会
ウイリアム・トレヴァー
中野恵津子訳

早朝のオフィス、カフェの片隅の定席、離婚した彼女の部屋。秘めた二人の愛の決断とは。「英語圏最高の短篇作家」による十二篇。

1900円
590065-6



通訳ダニエル・シュタイン上下
リュドミラ・ウリツカヤ
前田和泉訳

上 2000 円
下 2200 円
590077-9,78-6

ゲシュタポでナチスの通訳をしながらユダヤ人脱走計画を成功させた男。後にカトリック神父となりイスラエルに渡るその激動の生涯。



最終目的地
ピーター・キャメロン
岩本正恵訳

2400 円
590075-5

ウルグアイの邸宅で緑り広げられる愛の物語。英国古典小説の味わいをもつ滑稽でエレガントな傑作長篇。アイヴォリー監督により映画化。



帰郷者
ベルンハルト・シュリンク
松永美穂訳

2200 円
590072-4

帰郷した兵士が見たものは、なつかしい妻と、その後ろにいる見知らぬ男だった。『朗読者』の著者が積年の思いを注ぎ込んだ傑作長篇。



シンメトリーの地図帳
マーカス・デュ・ソートイ
富永星訳

2500 円
590081-6

数学史上の知られざる偉業「シンメトリーの地図帳」完成とは。天才たちの息遣いとともに描かれる、美しい数学ノンフィクション。



ポート
ナム・リー
小川高義訳

2300 円
590080-9

生後三ヶ月でベトナム難民としてオーストラリアへ。プッシュカート賞、ディラン・トマス賞ほか多数受賞の清新なデビュー短編集。



初夜
イアン・マキューアン
村松潔訳

1700 円
590079-3

ずっと二人で歩いていけたかもしれない。あの夜の出来事さえなければ。遠い日の愛の記憶を克明かつ繊細に描く、異色の恋愛小説。



奪い尽くされ、焼き尽くされ
ウェルズ・タワー
藤井光訳

1900 円
590084-7

夏休みを過ごす少女から、暴虐を尽くすヴァイキングまで。多彩な声と視点で荒涼たる日常を浮き彫りにする、恐るべき初短編集。



サラの鍵
タチアナ・ド・ロネ
高見浩訳

2300 円
590083-0

パリの女性記者と、ナチに連行された少女。六十年の時を越え、二つの人生が交錯する——累計三百万部のベストセラー。映画化原作。



夜と灯りと
クレメンス・マイヤー
梓瀧博樹訳

1900 円
590082-3

人々の心を覆う深い闇と、そこに灯るささやかな光。旧東ドイツ出身の新鋭による初短編集。ライブツィヒ・ブックフェア文学賞受賞。



無限
ジョン・バンヴィル
村松潔訳

2200 円
590087-8

死に行く父と、見守る家族。そして彼らを眺める、いたづら好きの神。慈愛と思索とユーモアに満ちた、ブッカー賞作家の傑作長篇。



黙禱の時間
ジークフリート・レンツ
松永美穂訳

1600 円
590086-1

ギムナジウムで開かれた追悼式。遺影を見つめる少年に魅る、美しい教師とのひと夏の想い出。巨匠による、海に彩られた純愛小説。



いちばんここに似合う人
ミランダ・ジュライ
岸本佐知子訳

1900 円
590085-4

孤独な魂たちが束の間放つ生の火花を、切なく鮮やかに写し取った十六の物語。映画監督としても活躍する著者のオコナー賞受賞作。



週末
ベルンハルト・シュリンク
松永美穂訳

1900 円
590090-8

テロリストが二十年ぶりに出所した週末。旧友たちの胸に甦る、恋、確執、未来への祈り。『朗読者』の著者が描くもう一つの「戦争」。



オスカー・ワオの短く凄まじい人生
ジュノ・ディアス
都甲幸治・久保尚美訳

2400 円
590089-2

オタク青年オスカーの悲恋の陰には、一族が背負った呪いがあった。全米批評家協会賞・ブюриッツアー賞をダブル受賞した傑作長篇。



小説のように
アリス・マンロー
小竹由美子訳

2400 円
590088-5

夫を子連れの女に奪われた音楽教師。今は幸福に暮らす彼女の前に過去を思わせる小説が現れて——。「短篇の女王」による十の物語。



ロスト・シティ・レディオ

ダニエル・アラロン
藤井光訳

2100円
590093-9

ある朝ラジオ局を訪れた少年の手には、無数の行方不明者たちのリストが握られていた。ペルー系アメリカ人作家によるデビュー長篇。



メモリー・ウォール

アンソニー・ドーア
岩本正恵訳

2000円
590092-2

記憶再生装置を手に入れた認知症の老女。ダムに沈む山村の人々。戦地でツルに出会う米兵。記憶をめぐる静謐で雄大な六つの物語。



ソーラー

イアン・マキューアン
村松潔訳

2300円
590091-5

太陽光発電でひと儲けを企む狡猾で好色なノーベル賞科学者。だが懲りない彼の人生にも暗雲が――。現代社会を笑いのめす最新長篇。



タイガーズ・ワイフ

テア・オブレヒト
藤井光訳

2200円
590096-0

「不死身の男」と「トラの嫁」。二つの物語が、祖父の人生の謎を浮き彫りにする――。本屋大賞翻訳小説部門第一位。驚異のデビュー作。



女が嘘をつくとき

リュドミラ・ウリツカヤ
沼野恭子訳

1800円
590095-3

夏の別荘で、波瀾万丈の生い立ちを語るアイリーン。ところがその話はほとんど嘘で……。嘘をつく女たちの哀しくも微笑ましい人生。



残念な日々

デIMITリ・フェルフルスト
長山さき訳

1900円
590094-6

貧しく、下品で、誇り高い。のんだくれの父一族との少年時代。心をつかんで離さない、ベルギーの俊英による自伝的連作短篇集!



終わりの感覚

ジュリアン・バーンズ
土屋政雄訳

1700円
590099-1

精緻、深遠、洗練。四度目の候補にしてブッカー賞受賞。英国を代表する作家の、時間と記憶をめぐる優美でサスペンスフルな中篇。



祖母の手帖

ミレーナ・アグス
中嶋浩郎訳

1600円
590098-4

サルデーニャの祖母が愛した「帰還兵」。イタリアの新鋭による、ひたむきで官能的な愛の物語。美しい器楽曲を思わせる小さな本。



手紙

ミハイル・シーキン
奈倉有里訳

2400円
590097-7

戦争に行った若者と残された少女。ふたりは百年の時を隔ててめぐり会う。死を超えて、時空を超えて綴られた、瑞々しい愛の手紙。



イースタリーのエレジー

ベティナ・ガッパ
小川高義訳

1900円
590102-8

繊細な情感。とぼけた味わい。さまざまな階層のジンバブエの人々の日常をモザイクさながらに描きだした類まれなデビュー短篇集。



アンネ・フランクについて語る時に僕たちの語ること

ネイサン・イングランドー
小竹由美子訳

1900円
590101-1

コミカルな語りにも深い倫理性。人間の普遍を描き出す啓示のような物語。フランク・オナー国際短篇賞受賞作。



夏の嘘

ベルンハルト・シュリンク
松永美穂訳

2000円
590100-4

避暑地で出会った男女。癌を患う大学教授。作家とその夫。小さな嘘をきっかけに秘められた思いが溢れ出す。著者十年ぶりの短篇集。



いにしへの光

ジョン・バンヴィル
村松潔訳

2100円
590105-9

姿を消した人気女優と後を追う老俳優の、奇妙な逃避行。いくつかの曖昧な記憶が不意に新しい像を結ぶ。ブッカー賞作家の最新作。



美しい子ども

ジュンパ・ラヒリ他
松家仁之編

1900円
590104-2

シリーズ創刊15周年を記念して、全101篇から選んだ傑作短篇アンソロジー。ラヒリ、ミランダ・ジュライ、マンロー、シュリンクほか。



こうしてお前は彼女にフラれる

ジュノ・ディアス
都甲幸治・久保尚美訳

1900円
590103-5

どうしていつも、うまくいかないのか? 浮気男ユニオールとたくさんの女たちが繰り広げる、おかしくも切ない九つの愛の物語。



遁走状態

ブライアン・エヴンソン
柴田元幸訳

2100 円
590108-0

前妻と前々妻に追われる元夫。勝手に喋る舌を止められない男。明晰に語られる十九の悪夢。ホラーも純文学も超える驚異の短篇集。



もう一度

トム・マッカーシー
榎木玲子訳

2100 円
590107-3

謎の事故で記憶を失い、巨額の示談金を得た男。失われた自分は、莫大な金で取り戻せるのか？ 絶賛と論争を呼んだ痛快な異色作。



ディア・ライフ

アリス・マンロー
小竹由美子訳

2300 円
590106-6

2013年ノーベル文学賞を受賞した短篇小説家が、透徹した眼差しと眩いほどの名人技で描きだす平凡な人々の描方もない人生の深淵。



低地

ジュノ・ラヒリ
小川高義訳

2500 円
590110-3

インド民主化運動のなか殺された弟。その身重の妻をアメリカに連れ帰った兄。愛と失意が織り成す波乱の家族史。待望の長篇小説。



ハイウェイと ゴミ溜め

ジュノ・ディアス
江口研一訳

1900 円
590004-5

『オスカー・ワオの短く凄まじい人生』の著者による伝説的デビュー作。全米最優秀短篇に選出された「イスラエル」ほか全十篇。



大いなる不満

セス・フリード
藤井光訳

1800 円
590109-7

なぜか毎年繰り返される、死者続出のピクニック。平均寿命一億分の四秒の微小生物。不条理と笑いに満ちた圧倒的デビュー短篇集。



マリアが 語り遺したこと

コルム・トビン
榎木伸明訳

1600 円
590113-4

母マリアによるもう一つのイエス伝。「聖母」ではなく人の子の母としてのマリアが語る、美しく果敢な独白小説。プッカー賞候補作。



光の子供

エリック・フォトリノ
吉田洋之訳

1800 円
590112-7

私の母は誰なのか——。パリを舞台に、映画と現実を往来するある男の愛の彷徨。ル・モンド紙元編集長による《フェミナ賞受賞作》。



甘美なる作戦

イアン・マキューアン
村松潔訳

2300 円
590111-0

MI5の美人スパイと若き小説家。二人の愛は幻だったのか？ 自伝的で小説論的。プッカー賞作家による野心あふれる恋愛小説。



突然 ノックの音が

エトガ・ケレット
母袋夏生訳

1900 円
590116-5

しゃべる金魚。神様の本音。ままならぬセックス。そして突然のテロ——。イスラエルの人気作家の掌編集。オコナー賞最終候補作。



風の丘

カルミネ・アバーター
関口英子訳

2100 円
590115-8

古代遺跡の夢。ファシズムとの戦い。一族の秘密。イタリア最南端、風の強い丘に暮らす家族四代の物語。カンピエロ賞受賞。



善き女の愛

アリス・マンロー
小竹由美子訳

2400 円
590114-1

誰にも覚えのある家族間の出来事を見事なドラマとして描きだす、マンローの金字塔の短篇集。1998年度全米批評家協会賞受賞作。



あなたを【最新刊】 選んでくれるもの

ミランダ・ジュライ
岸本佐知子訳

2300 円
590119-6

映画の脚本執筆に行き詰まった著者は、フリーペーパーに売野広告を出す人々を訪ねる。カラー写真満載、心を打つインタビュー集。



子供時代

リュドミラ・ウリツカヤ
絵ウラジーミル・リュバロフ
沼野恭子訳

1800 円
590118-9

中庭のあるアパートに住む子供たちが出会った奇跡。「キャベツの奇跡」「折り紙の勝利」等、祝福されたかけがえのない瞬間に心打たれる6篇。



ヴォルテール、 ただいま参上!

ハンス・ヨアヒム・シュートリヒ
松永美穂訳
尊敬と反発、女性関係に金銭トラブル。ヴォルテールとフリードリヒ大王の知られざる素顔を描く、笑いと驚きの新しい歴史小説。

1600 円
590117-2